

希学園 第409回 小5公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第409回公開テスト 小5国語 解説動画(2026年6月14日実施)	https://vimeo.com/1201110820/16b5ed11c7

1

4
D
近松門左衛門

ア
目
者
イ
工

小
る
猫

か
フ
耳

拾われ
機会
変身

陽気
荷物
青年

イ
工
ウ
一
エイキ

I
ホ
ー
ニ
ユ
(記述題)

ウ
工

学校の施設
(記述題)

だって

2

もうこれ以上なく落ち着いているのに
落ち着いてと言われ続けるため、どうし
てよいかわからず困惑する気持ち。

本当は笑いたいのをがまんしている。

(同意可) (同意可)

配点	
1 10・11	各2点×12 = 24点
2 6・10	各6点×2 = 12点
その他	各4点×16 = 64点
100点	

① (菅原克也『読むためのレッスン——小説はこんなふうに来ていて』より)

1 「語り手は、作中人物と同じく小説のなかの作りものだ」というのが結論・主張である。

2 A・Bは「作中人物」としての猫なので「経験する」が入る。CとDが対比的になっており、Cは「会話を聞くとあるため「経験する」が入り、Dは「読者に向けて語るとあるため「語る」が入る。」

3 直前の引用文に「浄瑠璃の近松」「戯曲家の近松」とある。ここより後で「近松門左衛門」のことだと分かる。

4 一文を読むと、「猫としての生をあらわしながら、苦沙弥先生の家の出来事や書斎の会話を理解する能力を持つ」とある。同様の話題が「経験する私としての猫は、いかにも猫らしいふるまいをします」の段落にあった。ここを照らし合わせる。

5 問4と同じく「苦沙弥先生の家の出来事や書斎の会話」の話題をたどる。「猫は中学校の教師」の段落の終わりに「その意味で、この猫は小説中で『目撃者・証言者』の役割をはたしているといえます」と筆者の考えが述べられている。

6 要するに一方が「いだく」で他方が「いだかない」なのだから、通常この二つが両立することはない。傍線部前後の流れが「合理的な説明を試みようとするのは無理な話です」「この猫はこういう猫なのだ、素直に受けとるほかありません」なのだから、あいだの傍線部だけが「不審をいだく」の意味になるのはおかしい。

7 重ね合わせなど「同じ」ということを考えるときには、①何と、②何が、③どういう点で、の3つを答えられるようにしよう。今回の場合は、①「私たち読者が考える作中人物」②「私たち読者が考える語り手」③「物語が語る通りに想像する(どんなものだろうと寛容に受け入れる)」である。

8 段落冒頭の指示語は直前の文を指すのではなく直前の段落全体を指すことが多い。直前の段落の要旨は初めにまとめられている。

9 前提①:『吾輩は猫である』の語り手は猫だ。前提②:『吾輩は猫である』の語り手は作者だ。結論:作者は猫だ。となる。もちろんこの結論は誤りであり、前提①は否定できないので前提②が誤っているのである。

10 X「あらかた」大部分。およそ。Y「フィクション」作り事。架空の物語。Z「耳を傾ける」注意して聞く。

11 a「拾(ひろう)」は「捨(すてる)」と混同しないように。b「機会」はチャンス。「機械」「器械」と混同しないように。c「身」は六画面の横棒を右に突き出さないように。

② (中前結花『ミシンは触らないの』より)

1 a「陽気」は性格や雰囲気などにぎやかで明るいさま。反対は「陰気」。b「荷物」は運ぶ品物。「負担」の意味を表すこともある。c「青年」は若者のこと。「成年」と区別しよう。

2 X「杞憂」の「杞」は中国古代の国名。その国の人々が、天がくずれ落ちることを心配して寝食をとらなかつたという故事から来ている。Y「フォーマル」の意味を知らなくとも、ここでは葬儀にふさわしいという意味なのは読み取れるはず。Z「手持ち無沙汰」は手が空いていてすることがないということ。

3 滞在二日目の朝に「カームダウン」と叩き起こされていた。その前日の夜である。

4 傍線部がある場面は、エイキが語ったエピソードを筆者が思い出して書いている部分である。

5 直前にあるように「緊張」と「移動」が理由としてある。Iは「慣れない」がヒント。エイキはホームステイがはじめてであった。IIは「への移動」がヒント。この日は滞在初日であるから、「移動」とは日本からニュージーランドへの移動のことである。

6 冒頭の「だから」は先に言っていたり分かりきっていたりした状況で言う言葉。直前の地の文(「寝ぼけていたため」)にエイキの心情が述べられているため、そこをまとめればよい。

7 ホストファミリーはジャックさんが突然亡くなり、悲しみに暮れていたのがあった。アは遺族の命が危うくなっているわけではないため誤り。イは葬儀のあいだエイキはなにも手伝えていなかったため誤り。エの「家計の支え」とは家族が暮らしていくための収入やお金のやりくりなどのことであるため誤り。

8 涙が出ない理由を考える。ジャックさんとは前日に会ったばかりであった。

9 傍線部が回想から戻る部分であることから、回想に入る前を探せばよいと見当がつく。

10 「中前さん」は筆者の名前である。筆者の心情は直前の二段落に書かれていたため、そこをまとめればよい。

11 「引き出し」「仕舞う」「置く」が比喩である。